

# 超インスタント=古代トルコ語文法 [Ver. 2022]

## ●トルコ (テュルク Türk) 語の文法構造

- ・基本的には日本語と同じ (S + O + V) 膠着語
- ・述語は通常では最後に来る (倒置構文もある) ; 主語や補語の語順は適宜入れ替えられる
- ・前置詞ではなく、格語尾 (てにをは) が後置される
- ・動詞は語幹があり、活用される

→名詞・動詞語幹の形によって、格助詞や活用語尾の形が異なる！ (母音調和の原則)

## 1. ローマ字転写と発音

### ●母音調和：一つの単語には片方の系列の母音しか現れない

(前舌語)	ä	e	i	ö	ü	※かつては i と e は区別されていなかった ※辞典によっては ä を e で、e を é で表記する辞典もある e.g., Clauson, <i>An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth Century Turkish</i> ※第2音節以降の円唇母音は原則として u / ü で表記する (例外もある)
(後舌語)	a		ı	o	u	

### ●子音

b	č	d	g	γ	(h)	k	l	m	n	(ñ)	-ŋ (= -ng)
バ	チャ	ダ	ガ	ガ	(ハ)	カ	ラ	マ	ナ	(ニャ)	(ング)
q	r	s	š	t	v	w	x	y	z	ž	
カ	ラ	サ	シャ	タ	ヴァ	ワ	ハ	ヤ	ザ	ジャ	

- ・ g / k は前舌語, γ / q は後舌語のみに用いる ※近年では γ / q を g / k と区別しない転写方法もある  
例) **kigān** 「病」 ↔ **qayan** 「皇帝」, **ögüz** 「河, 小川」 ↔ **oyuz** 「姓, 部族」
- ・ h 音は存在したが, 文字上では表記されない
- ・ ñ は古層に存在したが, かなり早い時点で y 音に変化した ※ **añıy** → **ayıy** 「悪い」
- ・ -ŋ = -ng は音節末のみ, 後舌・前舌共通 例) **keŋ** 「広い」 ↔ **qaŋ** 「父」
- ・ r は語頭には現われない (外来語は例外) 例) Skt. ratna > T. ārdini 「宝」

## 2. 格語尾 (格助詞) ※名詞に後続する「てにをは」

	母音の次	子音の次 (°は任意の母音)	備考
主格	(ゼロ); ärsär 「～であれば」		
属格 「～の」	+ŋ	+°ŋ (+in/+iŋ, +ün/+uŋ, +än/+aŋ)	人称語尾二人称単数と同形
	+n°ŋ	(+niŋ/+nīŋ, +nüŋ/+nuŋ, +näŋ/+naŋ)	
対格 「～を」	+g/+γ	+°g/+°γ (+ig/+iγ, +üg/+uγ, +äg/+aγ)	人称語尾の後 +°n
	+ni/+nī		qizimīn 「私の娘を」 atasın 「彼の父を」
具格 「～により」	+n	+°n (+in/+in, +ün/+un, +än/+an) 突厥碑文では n の直前の母音を表記しない	↑ 対格との混同に注意!
与格 「～に, へ」	+kā/+qa (まれに +ä/+a, +yā/+ya)		(三人称) +iŋä/+iŋa~+iŋya
位尊格「～で, に」「～より」	+tä/+ta, +dä/+da		(三人称) +intä/+inta, +indä/+inda,
	+tin/+tīn, din/+dīn (+tän/+tan, +dän/+dan)		(三人称) +intin/+intin, +indin/+indin,
等格 「～のような」	+čä/+ča		(三人称) +inčä/+inča
方向格 「～に, へ」	+gärü/+γaru		(三人称) +iŋärü/+iŋaru~+iŋyaru

※突厥碑文では三人称の場合, 常に前舌文字 <n> で書かれ, かつ直前の三人称の +i は省略されない。また三人称の +si は前舌文字 <s> で表記される。しかし, ウイグル碑文ではそうとは限らない。Erdal, *Grammar of Old Turkic*, 59-61, 122.

### 3. 人称代名詞

	一人称単数	二人称単数	一人称複数	二人称複数
主	<b>bän / män</b>	<b>sän</b> 「お前、汝」	<b>biz</b>	<b>siz</b> 「あなた」 sizlär 「君たち、あなたたち」
属	bäniḡ / mäniḡ	säniḡ	biziḡ, bizniḡ	siziḡ, sizniḡ
対	bini / mini	sini	bizni	sizni, sizläрни
与	<b>baḡa / maḡa</b>	<b>saḡa</b>	bizkā, biziḡä	siziḡä, sizä, sizläriḡä
位奪	mintä, mintädä mäntä, minitin	sintä, sintädä sinitin	bizintä, biznidä biztin, biznidin	sizintä, siznidä siznidin
方向	baḡaru	saḡaru	biziḡärü	siziḡärü

### 4. 人称語尾 ※名詞の所有者、動作主などを示す

	一人称	二人称	三人称
単数	+°m (+im/+īm, +üm/+um)	+°ḡ (+iḡ/+iḡ, +üḡ/+uḡ)	+i/+ī ※母音の後は +si/+sī
複数	+°m°z (+imiz/+īmiz, +ümüz/+umuz)	+°ḡ°z, +°ḡ°zlär/+°ḡ°zlar (+iḡiz/+iḡiz, +iḡizlär/+iḡizlar, +üḡüz/+uḡuz, +üḡüzlär/+uḡuzlar) ※ +iḡiz/+uḡuz もあり	同上 ; +läri/+larī

語順： 基幹名詞（+複数語尾）+人称語尾+格語尾

例) oḡul+lar+īmiz+ta 「息子+たち←私達の+から」 = 「私達の息子たちから」

at+iḡizlar+qa 「あなたたちの馬へ」 ; äv+im+in 「私の家を」

istä-mäk+im+čä 「私が欲するように」 ※通常、数詞と複数語尾は両立しない： üç qız-lar 「3人の娘」

修飾関係「AのB」= A + 属格 + B + 人称語尾 → A+B+人称語尾

① A+n°ḡ B+i/+si → ② A B+i/+si → ③ A B

### 5. 指示代名詞・疑問代名詞（指示形容詞・疑問詞）

	これ	それ, あれ (彼, 彼女)	どれ	何	誰	その他
主	bu, bo ; 複数 bolar	ol ; 複数 olar	<b>qayu</b> (qañu)	<b>nä</b> <b>nägü</b>	<b>kim</b>	qaltī いかにか <b>qač</b> どれだけ, いくつ qačan いつ nägülük, nälük なぜ <b>kim qayu</b> 誰かある(者) <b>nägü kim</b> いかなる(もの)  ※kim「誰」には関係代名詞 的用法もある
属	bunūḡ ; bolarniḡ	anīḡ ; olarniḡ				
対	bunī, munī	anī ; olarnī			kimni	
具		<b>anin</b>				
与	buḡar, muḡar	aḡar ; olarqa		näkä	kimkā	
位奪	bunta, <b>munta</b> mundin	anta ; olarda antin	qayuda, qanta qandin			
等	<b>bunča, munča</b> <b>buntay, muntay</b>	<b>anča, inča</b> <b>antay</b>		näčä nätäg		
方向	baḡaru	aḡar, iḡar	qanča			

## 6. 動詞

A. 不定形 -māk/-maq		
	B. 終止形 (終動詞)	C. 連体形 (形動詞；分詞) [下記Fも参照]
a. 中立形 (Aorist)	-°r ※否定形 -māz/-maz ※多くは -ür/-ur ; -ir/-ir, -är/-ar	同左
b. 過去	-ti/-tī, -di/-dī ※下記参照	-tük/-tuq, -dük/-duq
c. 完了	-miş/-miş ※伝聞過去「～けり」 -yök/-yoq ※近接過去	同左 (連体形の場合は伝聞過去ではない) 同左
d. 未来	-gäy/-γay ; 同右 -gälir/-γalir ※近接未来 (OTG 307)	-täči/-tači, -däči/-dači, -či/-čī ※否定形 -mäči/-mači
e. 必要・必然・義務	同右 -göl/-γul (< -göl/-γu + ol)	-göl/-γu 「～すべき, するところの; ～するであろう」 -gülük/-γuluq 「～する, ～される」[動作の対象] -s°k/-s°q, -s°g/-s°γ (古層)

- a, c, d の終止形は人称代名詞を後置して動作主を示す:  
berür män 「私は与えます」 bolmaz biz 「私達は～になりません」 almış sän 「君は取ったそうだね」  
kalgäy 「(彼/彼女は)来るだろう」 kalgäylär 「(彼らは)来るだろう」
- b 過去終止形は人称語尾で動作主を示す: kaldi 「(彼/彼女は)来た」 bardılar 「(彼らは)行った」  
bitidi 「私が書いた」 niyoşak boldum 「私はマニ教徒になった」 idtiγiz 「あなた達は送った」
- b, c, d の連体形は人称語尾で動作主を示す:  
kältüküm üçün 「私が来たために」 ärtükü yerdä 「(彼/彼女が)居た土地に」

### D. 連用形 (副動詞) ※人称語尾は接続しない (4のみ人称語尾で動作主を示すことがある)

1	-ü/-u, -ä/-a, -i/-ī (-yü/-yu, -yä/-ya, -yi/-yī)	同時性「～して, ～しつつ」
2	-°p (-ip/-ip, -üp/-up) -°p°n (古層)	継起「～して, ～してから」
3	-mätin/-matin, -mädin/-madin -mäyin/-mayin ; -mäti/-matī, -mädi/-madī -°p -mäti/-matī (同じ動詞の繰り返し) 「～するやいなや」 kälip kalmäti 「来るやいなや」	否定「～せずに, ～する前に」 ※一人称命令の否定と同形; ※過去終止形の否定と同形
4	-gäli/-γalī	目的「～するために, ～しようと」 継起「～してから, ～して以来」
5	-sär/-sar, -sä/-sa ※人称語尾が後続可	仮定「もしも～なら」条件「～する時には」 譲歩「～しても」理由「～なので, ～したので」
6	-ginčä/-γinča	限界「～するまで(に), ～する限り, ～する前に」 比較「～するより, ～するかわりに」
7	-čä/-ča	※稀な用法, 意味は未確定 (Gabain, <i>Altürkische Grammatik</i> , §223)

### E. 命令動詞 (終止形)

	単数	複数	
一人称	-äyin/-ayin, -yin/-yīn	-älīm/-alīm, -līm/-līm	(私/私達は)～しよう, ～したい
二人称	-gil/-γīl, -gin/-γīn 動詞語幹のみ käl 「来い」	-°η, -°ηlār/-°ηlar 動詞語幹のみ	～せよ, ～しなさい ～して下さい
三人称	-zün/-zun	-zünlār/-zunlar	～するように, ～あれかし, ～させよ

qutluγ bolzun 「天龍がありますように！」 burxan qut bulmaq<sup>lari</sup> bolzun 「彼らが仏果を得ることとなりますように！」

tngrī yerintā tuγmaqīmiz bolzun 「私達が天国に生まれることとなりますように！」

※未来終止形 -gäy/-γay も, 話し手の意思を反映した命令・希望になる (Will you ...?)

※必要・必然終止形 -göl/-γul も, 三人称命令としての働きをもつ

※一人称命令 -(ä)yin/-(a)yin の語末 -n は, 突厥碑文ではしばしば前舌文字 <n> で書かれる [Erdal, *Grammar of Old Turkic*, 59]

## F. 動作主を著わす連体形「～する(人, もの)」

-güči/-yuči	ay <b>yuči</b> 「言う(ay)人→顧問官, 大臣」 başla <b>yuči</b> 「率いる(başla-)人→長官, 酋長」
-gāk/-yaq	bas <b>yaq</b> 「押さえる(bas-)人→監督官, 総督」
-täči/-tači	ädgü ö <b>gli</b> 「善く思う(ö-)人→善友」
-°gli/-°gli	te <b>gmä</b> 「という(te-)もの→すなわち」 ; var čun še <b>tegmä</b> säkiz türlüg vibakdi-lar「八転声すな
-°gmä/-°gamma	わち八種類の格」

## G. 否定形

動詞語幹と活用語尾の間に **-mä/-ma-** を挿入する

čam čarım qıl**ma**dım「争議を私は起こさなかった」 bitig id**ma**mış sän「君は手紙を送らなかったそうだね」

üür ber**mäsär** män Tämür oyulum-ni id**ma**zun「私が黍を返済しなければ, テミルも私の息子を送り返すな」

## H. 疑問文

疑疑問の対象となる語の後に助辞の **mü/mu, gü/γu** を挿入する ※疑問詞があれば不要

ol ädgü qılınč üküš **mü**「その善行は多いのか？」 ačiy **mu** bolıyay「つらくなるだろうか？」

amtı bo qız singingkä **mü** täginür azu lükčüngkä **mü** täginür

「今, この娘は新興(地名)に行くのか, それとも柳中(地名)に行くのか？」

azu bo savımda igid bar **γu**「或いはこの私の言葉に嘘はあるか? (ないはずだ)」

## I. 動詞に関するその他の注意事項

1. 従属節では対格で主語を示すことがある

Udun qan Samtso açariy kälti tep äsidip「コートン王は, 三蔵阿闍梨が来たと聞いて」

2. 受動態の動作主は与格「～に」により示される

kün**kä** küyü「太陽(kün)に(より)燃やされて(küy-)」

**manga** qıl**maduq** ayiy qılınč「私によってなされなかった悪業」

**bizingä** aya**yuluq** tngri mozak「私達に尊敬(aya-)されるべき=私達が尊敬する聖なる慕闇」

3. ärkli, ärkän「～しているときに」

4. **ärki**「～ですか?」※返答を期待しない質問 äsän ärki sizlär「お元気ですか?」

5. ärinč ~-miş ärinč ~-ti ärinč ~-tük ärinč「～したりき; 確かに～したのである」[Erdal, 223]

6. -güčä/-yuča「～するのに十分な, ～するほどに, ～するまで」(形動詞としての中立形)

näčä taplasar tükä**güčä** tavar alııl「どれだけで気に入る(tapla-)なら, 尽きる(tükä-)まで財物を取れ」

7. **kärgäk**「必要である」← -mäk/-maq, -gü/-γu, -miş/-mish, -s°k/-s°q

suymuzni yazuqumuzni boşuyu ötün**mäk** **kärgäk** ärti

「我らの罪過を解放し(boşu-)ようと, 祈願し(ötün-)しなければならなかった」

8. -mäzkän/-mazqan「～しないうちに, ～しない間に」

9. -mişkä/-mişqa (三人称 -mişjä/-mişja)「～した時に」

10. -miştä/-mişta「～して以来(-gäli/-yalı) ; ～した時に(未来完了にも使う)」

11. -miştäkičä/-miştaqičä「(あたかも)～したかのように」

ataları ölm**ıştäkičä** sıytaşγay「彼らの父が死んだ(öl-)かのように悲しむ(sıytaş-)であろう」

12. -°r+čä/+ča「～する如くに」(形動詞としての中立形)

ay tngriγ **körürčä**「月神を見る(kör-)が如くに」

13. **tep**「～と[引用, 意図]」tesär「～といえは」teyin「～の目的で」

14. -tüktä/-tuqta, -tükintä/-tuqınta ①「～した時に」②「～したことにより」

olurtuqumta「私が座っていた時に」

burxan qutıja qatıylant**uqlarında**「佛果に対して彼らが精進(qatıylan-)したことにより」

elig inčä ay**duqta** ötrü「王がかくの如く言った(ay-)がために」

15. -tüktä/-tuqta **kisrä**「～した後」-tükintä/-tuqınta **bärü**「～してから, ～して以来」

## 7. 補助動詞

<b>är-</b> (Be動詞) → <b>ärür</b> 「～である, ～のである」 <b>bol-</b> 「～となる, ～になる」	
<b>-r ärti</b>	過去における現在／過去における習慣／仮定法現在
<b>-r ärmış</b>	過去に進行していたことの伝聞, 過去の習慣の伝聞 「～していたという」
<b>-miş ärür</b> <b>-miş ärmâz</b>	現在完了 同上 (否定形)
<b>-miş bolıyay</b>	未来完了 「～してしまうことになるだろう」 ※Erdal, GOT, 271
<b>-miş ärti</b>	過去完了 「～していたのである」
<b>-ti(m) ärti</b>	大過去 「～していたのである」
<b>-ti ärti(m)</b>	仮定法過去 「～したであろうに (実際はしなかった)」
<b>-ti ärsär</b>	過去の仮定; 過去の事実に反する仮定
<b>-täçi ärti(m)</b>	「まさに～しようとしていた, ～するところだった; (もし～なら)～したであろう」
<b>-gây/-yay är-</b>	希求, 意思 「～したい」 ※Erdal, GOT, 520–524
<b>-gü/-yu är-</b> <b>-gülük/-yuluq är-</b>	

### その他の補助動詞

副動詞 <b>-p</b> または <b>-ä/-a</b> , <b>-i/-ï, -ü/-u</b> に 後続	<b>ber-</b> 「与える」	強意 「～してやる; 確かに～する; すぐに～する」 ※Erdal, GOT, 520–524
	<b>bar-</b> 「行く」	完了 「～してしまう」
	<b>id-</b> 「送る」 <b>elt-</b> 「運ぶ」 <b>kör-</b> 「見る」	強意 「～してやる」
	<b>qal-</b> 「残る」 <b>käl-</b> 「来る」 <b>yorï-</b> 「通る, 歩く」 <b>tur-</b> 「立つ; とどまる」	継続・進行・習慣 「～し続ける, ～している」 <b>tutup turıy bitig</b> 「保持(tut-)し続けるべき証文」
副動詞 <b>-ä/-a</b> , <b>-i/-ï, -ü/-u</b> に 後続	<b>u-</b> 「できる」	可能
	<b>tägin-</b> 「達する; 受ける」	謙譲 「～し奉る, ～し申し上げる, 謹んで～する」
	<b>yarlıqa-</b> 「命令する」	尊敬 「～し給う, ～なさる, ～して下さる」

## 8. 動詞形成要素

<b>deverbal verbs</b> (動詞から動詞を作る)	
<b>-l-</b> <b>-n-</b>	受身, 再帰, 他動詞を自動詞化 <b>qat-</b> 「混ぜる」 → <b>qatıl-</b> 「混ぜられる, 混じる → 干渉する」 <b>bil-</b> 「知る」 → <b>bilin-</b> 「知られる」
<b>-r-</b> <b>-t-</b> <b>-tür/-tur-</b> <b>-gür/-yur-</b>	使役, 自動詞を他動詞化 ※実質的に意味が変わらない場合 (simplex) もある (特に尊敬の場合) <b>öl-</b> 「死ぬ」 → <b>ölür-</b> 「死なせる; 殺す」 <b>käl-</b> 「来る」 → <b>kälür-</b> 「来させる; もたらす」 <b>olur-</b> 「座る, 即位する」 → <b>olurt-</b> 「座らせる, 即位させる; 即位する」 <b>ye-</b> 「食べる」 → <b>yetür-</b> 「食べさせる; 養う」 <b>kir-</b> 「入る」 → <b>kirgür-</b> 「入らせる, 収める」
<b>-ş-</b>	相互・協同 <b>kör-</b> 「見る」 → <b>körüş-</b> 「互いに見る; 会う, 会見する」
<b>denominal verbs</b> (名詞から動詞を作る)	
<b>+lä-/+la-</b>	「～する」 <b>av</b> 「狩猟」 → <b>avla-</b> 「狩る」 <b>äv</b> 「家」 → <b>ävlä-</b> 「家をなす」 → <b>ävlän-</b> 「結婚する」
<b>+äd-/+ad-, +d-</b>	「～になる, ～にする」 <b>qut</b> 「福, 天寵」 → <b>qutad-</b> 「幸福になる/する」 <b>yoq</b> 「無い」 → <b>yoqad-</b> 「無くなる」
<b>+ä-/+a-, +i-/+ï-, +ü-/+u-, +k-/+q-, +kä-/+qa-, +gä-/+ya-</b> <b>at</b> 「名前」 → <b>ata-</b> 「名を呼ぶ; 任命する」 <b>iç</b> 「内」 → <b>içik-</b> 「内に入る; 服属する」 <b>taş</b> 「外」 → <b>taşiq-</b> 「外に出る」	

## 9. その他

1. <b>ol</b> 「～である」 (繫辞 copula) <b>bo mänıñ ol</b> 「これは私の <b>である</b> 」 <b>bo kün ädgü ol</b> 「この日は吉 <b>である</b> 」
2. <b>bar</b> 「ある(存在を示す)」 ↔ <b>yoq</b> 「無い」 ※前者は <b>bar-</b> 「行く」と混同しないこと!
3. kim の関係代名詞としての用法: <b>kim bar ärsär</b> 「存在しているところ(の)」 ← Chin. 「諸有」 <b>ögi qañı antay sav sözläyü umayay kim ol ärniñ könglin yarutsar</b> 「彼の母・父は, <u>そのような言葉</u> を言えないであろう ← その男の心を照らす(yarut-)かのような」

●名詞に直結する接尾辞

4. +**çi**/**çī** 「～人，～係」 [職掌]
5. +**ki**/**qī** 「～の」 [時間；場所]
6. +**lär**/**lar** ; +**gün**/**-yun** ; +**än**/**an** ; +**t** ; +**s** 複数語尾
7. +**l°g**/**l°γ** (+**lig**/**līγ**, +**lög**/**līγ**) 「～をもつ；～出身，～に属する」
8. +**l°k**/**l°q** (+**lik**/**līq**, +**lök**/**luq**) 「～用の，～のための」
9. +**s°z**/**s°z°n** (+**siz**/**sīz**, +**süz**/**suz**) 「～のない，～なしで」
10. +**täki**/**taqī** 「～にある；～のための」 [場所；用途]

●後置詞(的なもの)

11. +奪格 + **adın** 「～より他(の)」
12. +奪格 + **bärü** / **inyaru** [過去のこと] 「～より以降，～より以来」
13. **birlä** ~ **bilä** 「～と一緒に，～とともに；～により；合計で～，全部で～」
14. **kyä/qya** [指小辞] 他者への親愛；自分には謙譲 **yavız bitkäçi kyä bitidim** 「私，悪筆の書記めが書いた」
15. **mä/ma** = **ymä** 「～も」 [強調]
16. +奪格 + **mınča** [未来のこと] 「～より以降，～から後」
17. **ök/oq** 「～こそ，～さえ」 [強調] **özümün tuymış oğulum** 「私自身から生まれた私の息子」
18. +与格 + **ötrü** 「～に随って，～に続いて」
19. **öz** 「～自身」 **özümün tuymış oğulum** 「私自身から生まれた私の息子」
20. **sayu** 「～ごと」 (< **sa-** 「数える」)
21. **tapa** 「～に向かって」 (< **tap-** 「見つける」)
22. **täg** 「～のように，～のような」 **bizni tag** 「私達のような」 **bäg bolıy tag** 「主となるのに適した」
23. **tägi** 「～まで」 (< **täg-** 「至る」) ※母音調和しない：+**kä**/**qa** **tägi** 「～に至るまで」 → +**qatägi**
24. **uyur** 「時期；理由」 → **uyurınta** 「～の時（好機）に；～の理由により」
25. +奪格 + **ulatı** 「～など」
26. **üçün** 「～のために」 ※主格・対格に後続 **anı üçün** 「そのために」
27. **üzä** 「～の上に；（日付）に；～によって，～でもって」  
**bitig qılmiş kün üzä** 「証文を作った日に」 **baxşı üzä yaratmış** 「師僧により（＝が）作った」
28. **yana** 「また，再び」 (< **yan-** 「戻る，帰る」)
29. **ymä** ① 「～も，～もまた」 ② 発語 「さて，また」

## 10. 数詞

1	bir	10	on
2	iki	20	y(e)g(i)rmi
3	üç	30	otuz
4	tört	40	qırq
5	beş (biş)	50	älig (ällig)
6	altı	60	altmış
7	yetı (yiti)	70	yetmiş (yitmiş)
8	säkiz	80	säksän
9	toquz	90	toquz on
		100	yüz
		1000	biç, miç
		10000	tümän

「11」= **bir yegirmi** 「1つ20の方へ」 = **on bir** 「10+1」

「45」= **beş älig** 「5つ50の方へ」 = **qırq beş** 「40+5」

「123」= **yüz artuq yegirmi üç** 「100，さらに23」

序数詞←基数詞 + **nč**

第一 **birinč** (最初の **baş**, **baştınqı**, **ilki**, **äng ilki**) 第二 **ikinti**, 第三 **üçünč**,  
 第四 **törtünč**, 第五 **beşinč**, 第六 **altınč**, 第七 **yetinč**, 第八 **säkizinč**,  
 第九 **toquzunč**, 第十 **onunč**, 第十一 **bir yegirminč**

～ずつ +(r)**är**/**ar** → **birär**, **ikirär**, **altırar**

A+**är**/**ar** B → **beşär yüz** 「5 x 100」 ※「500ずつ」の意にもなる

概数 **äligčä** 「50ほど，約50」； 回数 **qata**, **yolı**

集合「2/3/4人で」 **ikigü**, **üçägü**, **törtgü** ... **münçayu** 「このようなのが一緒に」

日付：基数詞 + 与格 **üç yegirmi **kä**** 「十三日に」

※基数詞 + 位格の用法もある：**on beş **tä**** 「十五日に」

・主要な文法書・辞書

A. von Gabain, *Altürkische Grammatik*, 3. ed. Wiesbaden, 1974.

T. Tekin, *A Grammar of Orkhon Turkic*. Bloomington, 1968.

M. Erdal, *A Grammar of Old Turkic*. Leiden, 2004.

G. Clauson, *An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth Century Turkish*. Oxford, 1972.

